

WINDOW



高知県全羅南道姉妹交流記念訪問団歓迎レセプション(全羅南道木浦市)



高校生たち、韓服の試着体験!(全羅南道順天市)



打ちとけた様子の全羅南道と本県の高校生たち(全羅南道木浦市)



合同で扇を製作(全羅南道芸術高校)

2017
Spring
No.66

特集

高知県—^{ぜんらなんどう}全羅南道との姉妹交流協定締結
高知県と全羅南道の懸け橋に...高校生5名を全羅南道に派遣!

- 高知県国際交流団体の活動紹介(土佐ジョン万会)
第2回ジョン万次郎英語弁論大会開催報告
- 南米移住地を訪問して
- えっ?地球の裏側に高知県人が!(JICA四国)
- INFORMATION BOARD
高知県国際交流員からの着任あいさつ
国際ふれあい広場開催報告
GENKI青年会土佐弁ミュージカル2017「土佐バスターズ」開催案内

第2回ジョン万次郎英語弁論大会開催報告

土佐ジョン万会 事務局長 森 薫

受賞者を北米大会に派遣

平成28年8月27日(土)に高知市文化プラザ・かるぽーとにおいて「第2回ジョン万次郎英語弁論大会・座談会」が開催され、中学生12名、高校生4名の計16名が参加しました。今年で2回目となる本大会は、ジョン万次郎の功績を称えとともに、それに続く若者達にジョン万次郎のことをより深く知ってもらうために開催しました。

昨年同様、皆さんのレベルが高く審査員の方々も選考に苦慮されていましたが、厳正な審査の結果、中学生の部では、岡林航平さん(高知大付属中1年)、高校生の部では、田中万結さん(高知工業高校1年)が特別賞を受賞しました。田中さんは昨年引き続き再度チャレンジし、みごとリベンジを果しました。

副賞として10月4日(火)よりアメリカで開催された「第26回日米草の根交流サミット2016広域アトランタ大会」に派遣されました。このサミットは、公益財団法人ジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根センターが毎年日本とアメリカで交互に開催している約1週間の交流イベントです。そのオープニングセレモニーで岡林さん、田中さんの2人は高知で行ったものと同じスピーチを300人の聴衆の前で堂々と披露し、拍手喝采を浴びました。

その後、中濱京氏(ジョン万次郎直系子孫)、北代淳二氏(ジョン万次郎研究家)、青野博氏(ジョン

万次郎研究家)による座談会が行われ、ゲストとして前回大会の特別賞を受賞した濱田優介君が九州(東福岡高等学校・サッカー部)から駆けつけてくれました。

ジョン万スピリットを胸に 高知から世界へ羽ばたく

第2回目の弁論大会を振り返って、英語弁論大会に参加し、人前で堂々とスピーチを述べる学生達の意欲に感心しました。正にジョン万スピリットそのものです!そして若い時に、海外に出て行って体験するという事は、なんと素晴らしい事なのだとつくづく感じました。今後も大いに若い人が、土佐から羽ばたいてもらいたいものです。



アトランタ大会

第3回英語弁論大会は平成29年8月上旬の開催予定です。今年から計画されている「幕末維新博」にも、大いに弾みが付くことでしょう。

その他の受賞者

- ・土佐ジョン万会長賞: 野崎駿矢(土佐塾中)
- ・高知県教育委員長賞: 竹村唯(丸ノ内高校)
- ・高知市教育委員長賞: 山本真央(大方中)
- ・NHK高知支局長賞: 小松広美(土佐山学舎)
- ・ジョン万次郎特別賞: 田岡花菜(土佐山学舎)
- ・審査員特別賞: 西健汰(香北中)



岡林さんスピーチ
(アトランタ大会にて)



弁論大会表彰式



ジョン万寸劇

この弁論大会は、当協会の「民間国際交流・協力事業費補助金」を活用して実施されたものです。当補助金に関する詳細については、当協会HPをご覧ください。

高知県—全羅南道との姉妹交流協定締結 「高知県ビジネスマッチング in 大韓民国」開催

高知県文化生活部国際交流課 主事 前田 智佐

田内千鶴子さんをきっかけに受け継がれてきた両県道の友好交流

高知県は、第2次世界大戦前後の反日感情が高まっていた時代に、いくつもの困難と国籍の違いを乗り越え3千人の孤児を育て上げ、「韓国孤児の母」として今なお日韓で敬愛されている、本県出身の田内千鶴子さんをきっかけに、韓国全羅南道と友好交流を行っています。

高知県と全羅南道は、彼女が日韓の間に築いた尊い友情を大切に守り、2003年には観光・文化交流協定を、2009年には産業交流協定を締結しました。そしてこの度、これまでの交流の積み重ねを踏まえ、2016年10月31日、全羅南道において両県道の姉妹交流協定を締結しました。これを機に、両県道はより緊密に連携し、今まで以上に幅広い分野で交流を深めていくことで、それぞれの地域が抱える課題を互いに協力しながら解決し、相互発展につなげることを目指します。

また、10月31日は田内千鶴子さんの生誕日であり命日でもあります。このような記念すべき日に姉妹交流協定を締結できたことは、両県道にとって大変意義深いことと思います。両県道知事による協定書の署名の後には、全羅南道庁の広場にて田内千鶴子さんにちなんで梅の植樹式が行われました。(亡くなる前に「梅干しが食べたい」と言われたそうです。)

ソウルで商談会を開催 本県をPR

今回の訪問に合わせ、首都ソウルにおいて「高知県ビジネスマッチング in 大韓民国」と題した本県主催の商談会を開催し、観光、木材、土佐酒の3分野にわたる県内企業10社が参加しました。50社を超える韓国企業が参加し、実際に成約につながったケースもあります。冒頭には知事自ら高知をPRするプレゼンを行い、多くの記者が取材を行うなど、現地での注目度の高さも伺えました。

広がる交流活動

2016年8月27、28日には、今回の姉妹交流協定締結に先駆け、駐日本国大韓民国大使館主催による韓日文化キャラバン「高知・全羅南道デー」が開催され、田内千鶴子さんの半生を描いた映画上映にも多くの方々が訪れました。2017年は、高知市若松町に田内千鶴子生誕之地記念碑が建立されて20周年という記念の年です。また、全羅南道では国際農業博覧会が開催され、本県からも企業の参加が見込まれています。高知県では、今後とも、韓国全羅南道をはじめとする海外との地方レベルでの国際交流に積極的に取り組んでまいります。



尾崎知事と全羅南道の李知事の懇談



木浦共生園訪問時



尾崎知事 商談会でプレゼンテーション



記者の取材に応える尾崎知事

高知県ホームページ (高知県の国際交流)

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/141901/h27kokusaikoryu.html>

全羅南道ホームページ

<http://www.jeonnam.go.kr/?menuId=japanese0000000000>

高知県と全羅南道の懸け橋に...

高校生5名を派遣しました! ~H28韓国青少年派遣プログラム~



田内千鶴子さんの偉業がもとで本県と縁の深い全羅南道への訪問を通じて、現地の文化や人々と接し国際感覚を醸成すること、また将来的に県内の国際交流に貢献できる若い世代の育成を目的として、書類審査および面接により選考した高知東高等学校の生徒5名を派遣しました。(KIA・高知県主催)

高校生たちは、現地の高校生や木浦共生園の子どもたちとの交流、文化体験などを通じて全羅南道に対する理解と友好を深めました。当協会では、友情を築いた両県道の高校生たちが懸け橋となることを期待し、これからも青少年の交流を重ねていく予定です。(H29年度は高知県が全羅南道の高校生を受入れる予定)

おもな行程

8月3日	高知～全羅南道木浦市へ移動 現地高校生と合流後、歓迎会へ参加。その後ともに宿泊
4日	全南芸術高校訪問 キャンパスツアー、クラブ活動の見学、合同で扇の絵付け体験など 長興水祭りへの参加・噴水ショー at
5日	木浦共生園視察・園の子どもたちとの交流 木浦市青少年文化センター訪問、クラブ活動の見学 唐津青磁祭りの視察 (青磁作り体験含む)
6日	順天湾国家庭園観覧・楽安邑城民族町観覧 韓国文化体験
7日	麗水の海沿いの散策・移動ののちソウル市へ
8日	移動、高知空港着



参加高校生による報告

〈田内千鶴子さんの偉大さを感じた〉



おおにし ゆうり
大西 優璃

韓国の歴史や文化、そして何より人と触れ合うことができ、貴重な経験ができました。また、全羅南道の景色や気候は高知と似ていて、親近感をもつことができました。

今回の訪問で特に刺激を受けたのが、同世代である高校生がとても積極的なことです。到着した日に歓迎会を開いていただき、その日の夜は、南道芸術高校の女子生徒と一緒に泊まり、いろいろな話をしました。ジェスチャーなどを交えて一生懸命伝えようとする彼女らの心の温かさに感動しました。翌日、彼女らが通う学校を訪れましたが、夢を実現するために頑張っている姿が輝いて見えました。

本県出身の田内千鶴子さんが孤児を育てた「木浦共生園」も訪問し千鶴子さんの慈悲深い優しさ、信念を貫く強さを目の当たりにし、改めて千鶴子さんの偉大さを感じました。

全羅南道と高知の交流はこれまでも行われてきましたが、姉妹協定の締結を機にますます交流が深まることを願っています。そして、私自身も交流に貢献できる県民の一人でありたいと思います。

〈人は通じあえる〉



かわむら らら
川村 来楽

たくさんの人との出会い、いろいろな体験など、とても充実した6日間でした。

中でも私が最も心に残っているのは、3日目の夜の出来事です。それは、宿泊先のユースホテルで、随行してくれているスタッフとデリバリーチキンを囲みながら、いろいろな話をしたり、ふざけあったり、たわいもないことで大笑いしたりしたことです。言葉ではうまく言い表せないのですが、心の中にあつたつかえがとれた瞬間であると同時に、「やっと通じ合うことができた」と実感できた瞬間であり、そして、明日からももっともっと楽しくなると確信した瞬間でもありました。

今回の活動を通して、私は、思うように会話ができなくても人は通じ合うことができることを学びました。しかし、相手の言葉が理解できれば、もっと分かり合えることも感じました。

今回このような機会をいただき、自分自身を成長させることができたことに感謝するとともに、これからも語学の習得に努め、将来いろいろな国の人と積極的に交流していきたいと思っています。

〈毎日が新しい発見と感動〉



かわむら みのり
川村 美乃莉

私たちが学校で受講しているハングルの先生は韓国出身の方で、授業の中で韓国のことをよく話してくださいます。ですから韓国について一定の予備知識はあったのですが、やはり、実際に自分の目で見たり体験したりして得られる感覚は想像以上で、毎日が新しい発見と感動の連続でした。

プログラムではないのですが、今回の訪問で私が一番印象に残っているのは、全行程を私たちと共に行動してくれたスタッフのキムさんや運転手のイさんとの出会いです。初対面、ましてや言葉が違うということで、最初はお互いぎごちなかったのですが、二人が少しずつ日本語を覚えてくれたり、私たちに韓国語を教えてくれたりして、気が付けばすっかり打ち解けていました。思うように言葉が通じなくても、コミュニケーションできることや心が通じ合えることを身を持って経験できたことは、私の中で大きな財産になりました。

今回の経験を生かし、何事にも前向きに積極的に取り組んでいきたいと思っています。

〈全羅南道の高校生との交流で〉



もり すずは
森 涼菜

私は、中学生のころから韓国のアイドルが好きで、次第に韓国に興味をもつようになりました。今回一緒に参加した友達も同じように、韓国のアイドルや韓国の歴史や文化などに興味があったので、滞在していた6日間はとても充実し楽しかったです。

今回のプログラムの中で、私が最も印象に残っているのは、全羅南道の高校生との交流です。学校でハングルを勉強しているとはいえ、流暢に会話できるほど韓国語に自信がある訳ではない私は、正直なところ交流することに不安を抱いていました。しかし、私とペアになった年下の女の子が驚くほど日本語が上手で、まったく会話に困ることはなく、打ち解けるのに時間は必要ありませんでした。そして、私たちと南道の高校生の全員が、一つの部屋に集まり、お互いの国のお菓子を交換しながら紹介したり、今高校生の間で流行っていることをSNSで伝え合ったりし、気が付けば夜中まで盛り上がっていました。わずか一泊だけでしたが、プログラムにはないのに、翌日の夜、みんながわざわざ私たちに会いに来てくれた時は、本当にうれしかったです。

私は、彼女たちの笑顔をこれからも絶対に忘れないでいようと思います。

南米移住地を訪問して

高知県文化生活部国際交流課 主任 武田 昌子

南米3か国高知県人会を訪問、パラグアイでの記念式典に出席

平成28年9月6日から16日(7泊11日)の日程で、高知県からの移住者がいる南米3か国の移住地を訪問しました。

今回の訪問団は、県行政・議会及び民間団体の14名で構成され、「パラグアイ高知県人会創立40周年記念式典」と「パラグアイ日本人移住80周年記念祭典」へ出席したほか、在亜(アルゼンチン)高知県人会とブラジル高知県人会の会員の方々との交流・視察などを通じて、本県と日系社会の相互理解、移住地と母県とのさらなるつながりを深めることを目的としました。

訪問先の一つ日、アルゼンチン共和国では、在亜高知県人会、アルゼンチン日本国大使館を訪問し、県人会の会員の農園を2か所視察しました。

二つ目の訪問先、パラグアイ共和国では、パラグアイ高知県人会創立40周年記念式典とパラグアイ日本人移住80周年記念祭典へ出席し、パラグアイ日本人移住80周年記念祭典の前には、慰霊祭が行われ、訪問団の一人ひとりが献花をさせていただきました。

この記念祭典は、パラグアイ共和国のオラシオ・マヌエル・カルテス・ハラ大統領と秋篠宮眞子内親王殿下のご臨席のもと盛大に行われました。パラグアイ共和国の発展には、日本人移住者が大きく貢献し、現在の日系社会の基礎となっていることを、この訪問をきっかけに知ることができました。

また、移住地ごとにあるラパス、ピラゴ、イグアス高知県人会とピラゴ農業協同組合を訪問しました。

最後の訪問先、ブラジル連邦共和国では、ブラジル高知県人会、JETROサンパウロ事務所、サンパウロ総領事館を訪問し、県人会の会員の方の広大な農園や果樹園等を視察しました。



在亜高知県人会の皆さんと(ブエノスアイレス)



パラグアイ日本人移住80周年記念祭典



パラグアイ高知県人会創立40周年記念式典(アスンシオン)



ブラジル高知県人会の皆さんと(サンパウロ)

各県人会の皆様への母県への思いをつなぐ

各県人会では、歓迎懇談会を開いていただくとともに、高知県で研修を受けた元研修員との懇談の場を設定していただき、元研修員からは、研修を受けたことが現在の仕事に活かされていること、再度研修を受ける機会があれば受けたいとの話を直接お聞きすることができました。

アルゼンチン大使館では、大使から直接アルゼンチンの現状についてお話を伺い、またサンパウロ総領事館では、総領事から日系人の方の日本・母県への「素敵な日本でいて欲しい」という熱い思いをお聞きすることができました。

今回の参加者の中に、訪問団として3回目の方がいらっしゃいましたが、また行きたくなる気持ちが分かるような気がしました。これは、行ってみたいと分からない気持ちだと思います。

この訪問を終えて、南米へ移住された方々のことを県内の皆さんに知っていただくこと、また、母県として県人会の皆様のお受け止め、絆をより一層強固なものにしないでほしいという思いを強くしました。

最後に、訪問でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

えっ?地球の裏側に高知県人が!

JICA高知デスク 杉尾 智子

「どうか高知の皆さんに、私たちがここで生きていることを伝えてほしい。」

パラグアイ・アマンバイで出会った高知県人

2016年10月13日、地球の裏側で、とても陽気な高知県人と出会った。

彼らは、高知龍馬空港から丸二日かかるパラグアイ・アマンバイ県に住む(3回飛行機を乗り継ぎ首都アスンシオンへ。そこからさらに北東に車で約430キロ)。パラグアイにある10の居住地の中でも最も遠いアマンバイを訪れる日本人は少ない。そのため、私たちJICA調査団*7名が到着した時には、「母県・高知県からこんな遠くまで良く来てくれた!」と県人会の大歓待を受けた。

日本人の南米移住は、1899年のペルーへの移住を皮切りに、ブラジルなどへと広がった。パラグアイでも1936年、首都から南東約130キロのラ・コルメナ移住地が設置され、入植を開始。戦後は1954年から移住事業が再開され、JICAの前身である海外移住事業団が新たに設置した移住地に、最終的には7,177人が移り住んだ。その中でも高知からの移住者は1,312人と、他県と比べても最多である。

ここアマンバイへの移住の背景は上記政府設置の移住地とは異なり、コーヒー農園の雇用農としての移住が主だ。しかし農園は3年後に破産。退耕者は土地を購入し自営農となるか、隣国ブラジルに転住、もしくは日本に帰国するか等の選択を迫られたそう。パラグアイ高知県人会の山協会長(旧幡多郡大方町出身)は当時を振り返り、「それこそ、土中に住むアルマジロでも捕まえて食べてやろうかと思うくらい苦勞した。今はみんな笑って、誰もそんな話はしませんかね。」と、お話しくださった。

確かに私たち調査団がお会いした県人会の方々

は、高知のあったかい気質にさらに南米の陽気さが加わったように明るく、苦勞を微塵も感じさせない逞しさがあつた。そして、そんな中でも、日本の(土佐の)伝統や文化、習慣は、大切に守り継いでいる。土瓶で出てきたお茶、お寿司や山菜、おはぎ。夜の歓迎会でビール片手に土佐弁で挨拶に回る姿には、高知にいるかと錯覚するほどだ。

過去80年、パラグアイ社会に溶け込みながらも、日本人としての誇りと美德を忘れず、原始林だった移住地を広大な穀倉地に耕作し、パラグアイを世界第4位の大豆輸出国に押し上げた。彼らの誠実な努力が実を結び、昨年日本人入植80周年はパラグアイの国家行事として扱われている。二世、三世が学ぶ日本語学校も今では、「しつけや礼儀」が学べると、パラグアイ人の入学希望者も増えているそうだ。なるほど。子どもたちが一人一人に「こんにちは」「さようなら」と腰を折って挨拶をする姿からは、その成果を安易に見てとることができる。

県人会からのメッセージ 町民講座を開催

そんな県人会からのメッセージ。「どうか高知の皆さんに、私たちがここで生きていることを伝えてほしい。」「日本語学校に高知県からボランティアに来て、日本語やよさこいを教えてもらえないか。」などなど。調査団員とJICA四国はこの要望に応え、今後四十町での町民講座(今年4~6月頃を予定)やよさこいの衣装や鳴子、図書本の提供等を行い、県との繋がりを深めるために活動していく予定だ。詳細をお聞きになりたい方は、いつでもJICA高知デスク(杉尾)にご連絡ください。

*JICA調査団とは、「青年海外協力隊事業等事業理解促進調査団」のこと。昨年JICA四国支部が、日本人が移住を始め80周年を迎えたパラグアイにJICAボランティア事業の理解促進と日系社会との繋がりの強化を目的に調査団を派遣。



◀アマンバイ高知県人会と調査団員

◀アマンバイ日本語学校にて、歓迎のよさこい踊り

大豆やトウモロコシを作る▶
大農家の佐々木さん
(旧高岡郡窪川町出身)



INFORMATION BOARD

国際交流員(イギリス) 着任あいさつ



ナオミ・ロング

初めまして！ナオミ・ロングと申します。南イギリスのチチェスター出身です。日本ではあまり知られていない町ですが、海が近く自然がきれいな所です。大学では日本語・日本の文化を専攻しました。大学3年生の時、東京の大学に一年間留学しました。2015年8月に卒業後、国際交流員となり、高知県北川村に配属されました。昨年8月からは高知県国際交流課で働いています。高知の文化を学びながら、国際交流活動を通して、イギリスの魅力を頑張って伝えていきたいと思っています。

幼い頃からダンスが趣味なので、よさこい祭りが有名で、踊りが大好きな高知県の国際交流員となれて幸せです。休みの日には、高知を探ったり、おいしいレストランを見つけることが好きです。おすすめの物があればぜひ教えてください！よろしく申し上げます。



2016年のGENKI 土佐弁ミュージカルに参加しました！

国際ふれあい広場2016を開催しました

2016年10月16日(日)、国際交流のイベントとして恒例となりました「国際ふれあい広場2016」を今年も高知市ひろめ市場南側のよさこい広場で開催しました。

今年は当協会を含め11団体が参加し、海外の民族舞踊や音楽、海外の料理、民芸品の販売、参加団体の活動を紹介した写真展など、様々な催しを行いました。

中でも県立図書館による外国の絵本の読み聞かせは今回が初めての催しで、県国際交流員などのネイティブの朗読に皆熱心に耳を傾けていました。図書館のブースでは国際交流の関連図書をその場で借りることができるようにもし、国際交流と図書館との連携の新たな一面を見ることができました。



県国際交流員のナオミ・ロングさんによる読み聞かせ

参加団体：11団体(順不同)

奥村多喜衛協会、日中友好中国帰国者の会、高知大学医学部アジア・僻地医療を支援する会、高知SGG善意通訳クラブ、高知県フラ協会、高知県青年海外協力隊OB会、高知県文化生活部国際交流課、高知県立図書館、特定非営利活動法人Brain、カポエイラ・バトゥーキ・ジャパオ高知、高知県国際交流協会

GENKI青年会 土佐弁ミュージカル2017「土佐バスターズ」

4月に高知に住む外国人が毎年公演している「GENKI土佐弁ミュージカル」を開催します！今年のテーマは「土佐バスターズ」！(人気映画「ゴーストバスターズ」から借りてきました)

(ストーリー)時は未来の高知。様々な変化が起こり、よさこい祭りなど土佐の伝統文化が脅かされていく。この状況を心配した土佐の偉人が、故郷を救うべく、幽霊世界からやってくる。人々と一緒に解決方法を探していくことで、互いの理解を深め、自分たちの文化の大切さに気付く…



2016年の「お遍路オールスターズ」

土佐弁ミュージカルは地域の国際交流活動を促進することを目的としています。海外留学を希望する県内の中高大生への助成金を募

る募金活動も行っています。入場料は無料です。ぜひ足を運んでください！

公演日時・会場

4月9日(日)	香南市	弁天座	13:00~
	安芸市	安芸市民会館	18:00~
4月15日(土)	四万十町	四万十町コンベンションホール	13:00~
	四万十市	四万十市立文化センター	18:00~
4月16日(日)	土佐市	USAくろしおセンター	13:00~
	高知市	県民文化ホール(グリーン)	18:30~

※開演時間は変更される場合があります。

お問合せ: GENKI青年会代表 ナオミ・ロング
TEL: 088-823-9605 (高知県国際交流課内)
Website: www.tosabenmusical.blogspot.jp

